

## 「長く一緒に…」 今も続く道夫さんと 直子さんの愛

22歳の時に道夫さんと出会い、つきつこの人と長く一緒にいるんだろうなあ」と感じたという直子さん。道夫さんのことを「素朴で温かい。そのままの自分を受け入れてくれて、安心して一緒にいられる人。本当に信頼していました」と語ります。

「二人はラブラブだったんですね」と聞くと、横から逸馬さんが「いや、ラブラブだよ。道夫はずっと直ちゃんひとすじ」とニコリ。直子さんの頬は赤く染まりました。

「自分の写真や文章を見た人が少しでも元気になったらすぐくうれしい」と語っていた道夫さんの意志を継いで、3年前に星野道夫事務所を立ち上げた直子さん。現在、写真展や書籍出版の対応、膨大な数の写真整理を「できる範囲でやっていこう」と取り組んでいます。

## 出会いを 大切にされた道夫さん

アラスカにほれ込んだ道夫さんは、撮影のかたわらで精力的に地元の人と会い、風習や歴史などの話を聞いていました。

「長い撮影旅行から帰ってくると真っ先に、お風呂に入りながら留守の間にたまっていた友達からの手紙を読んでいた」と直子さんが話せば、八千代さんも「日本に帰国しても一番最初

道夫さん八幡神社にて5歳のお祝い。



に友達に会いに行っていたわね」と笑います。

日本でもアラスカでも、出会った人との付き合いをとっても大切にしていた道夫さん。ご両親は、こんなにもたくさんの友人がいて、みんなからとても愛されていたんだと、葬儀の時に初めて知ったそうです。

「それは道夫の人徳であり、得難い財産だったと思う。正直に言って、私は道夫が何をしているかを正確には知らなかったが、みんなの心を動かした活動の大きさに驚いています」と逸馬さんは語ります。

「人生はからくり  
満ちている」と  
写真に込める  
限りないメッセージ

北極圏にあるエスキモーの村シシユ

## いちかわ 星野道夫写真展

星野道夫の宇宙  
おかえりなさい ふるさと市川へ



日時	12月10日(水)~25日(木)
場所	市川市文化会館
入場料	大人800円(前売¥600円) 小中高校生300円(前売¥200円)
主催	「いちかわ」星野道夫写真展実行委員会・朝日新聞社・テレビ朝日
共催	(財)市川市文化振興財団・(社)市川青年会議所
企画協力	星野道夫事務所
お問い合わせ	「いちかわ」星野道夫写真展実行委員会 TEL 047-314-0731(月・火・木/10時~16時) URL <a href="http://www.ijc.jp/hoshino-michio/">http://www.ijc.jp/hoshino-michio/</a>

## Photographer Michio Hoshino

マレフを空撮した1枚の写真が、星野道夫さんとアラスカとの出会いでした。その写真が持つ光の不思議さにひきつけられ、シシユマレフ村村長宛に手紙を出しました。その返事が半年後に届き、ついに20歳のとき村でひと夏を過ごしたのです。

後年、その写真を撮ったジョージ・モーブレイ氏との偶然の出会いを、著

書の『旅をする木』(文藝春秋・刊)の中で「人生はからくりで満ちている。(中略)人と人が出会う限りない不思議さに通じている。」と著しています。一枚の写真が大きな転機となり、人との出会いに結びついていきます。星野道夫さんが写し撮った世界が発信する限りないメッセージを、この写真展で受け止めていただければと思います。

上/道夫さんがシシユマレフ村村長にあてた手紙。  
下/シシユマレフ村村長から帰ってきた手紙。

